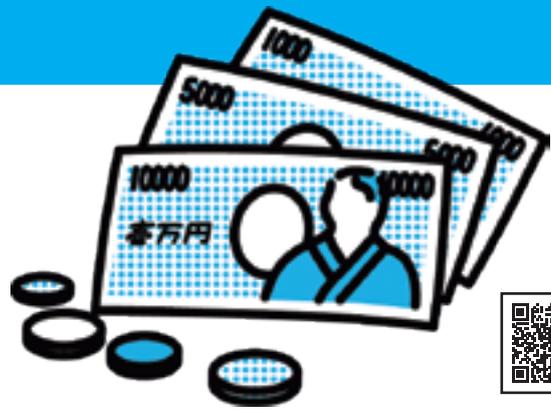


# 決算報告



市民の皆さんに納めていただいた税金や、国や県から交付されるお金がどのように使われたのかをお知らせします。

■問合せ / 【決算報告】 会計課審査出納担当、【財政状況】 財政課財政担当

## 一般会計 歳入

市の収入

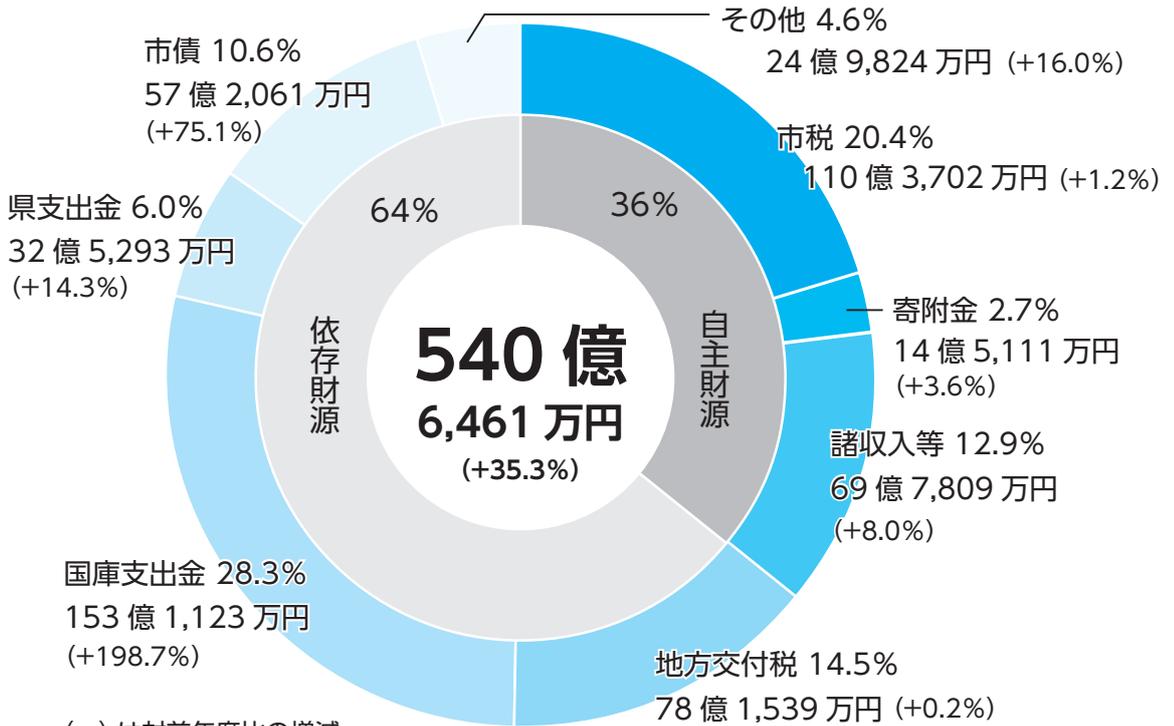


元年度から  
約 140 億  
9,982 万円増



市民 1 人あたり  
66 万 9,946 円

令和 3 年 4 月 1 日現在



( ) は対前年度比の増減

### 一般会計・特別会計の決算状況

会計名	収入	支出	差引額	実質収支額
一般会計	540 億 6,461 万円	525 億 5,114 万円	15 億 1,347 万円	12 億 861 万円
特別会計 (内訳①~⑧)	178 億 5,559 万円	172 億 507 万円	6 億 5,051 万円	6 億 5,051 万円
①国民健康保険事業勘定	77 億 5,952 万円	74 億 3,096 万円	3 億 2,856 万円	3 億 2,856 万円
②後期高齢者医療費	10 億 4,014 万円	10 億 1,918 万円	2,096 万円	2,096 万円
③介護保険事業勘定	87 億 7,782 万円	85 億 2,573 万円	2 億 5,209 万円	2 億 5,209 万円
④と畜場及び食肉市場費	1 億 9,016 万円	1 億 9,016 万円	-	-
⑤青果物地方卸売市場費	2,349 万円	2,281 万円	68 万円	68 万円
⑥物品調達費	1,985 万円	1,586 万円	398 万円	398 万円
⑦南原財産区費	1,810 万円	17 万円	1,793 万円	1,793 万円
⑧三沢東部財産区費	2,650 万円	19 万円	2,631 万円	2,631 万円
合計	719 億 2,020 万円	697 億 5,622 万円	21 億 6,398 万円	18 億 5,912 万円

実質収支額…歳入歳出の差引額から、翌年度に繰り越すべき財源を差し引いた収支。

### 事業会計の決算状況

会計名	収入	支出	差引額	
水道事業	収益的収支	16 億 9,445 万円	15 億 9,687 万円	9,758 万円
	資本的収支	2,575 万円	5 億 8,222 万円	-5 億 5,648 万円
下水道事業	収益的収支	21 億 8,963 万円	21 億 6,222 万円	2,741 万円
	資本的収支	14 億 5,568 万円	20 億 7,927 万円	-6 億 2,358 万円
病院事業	収益的収支	75 億 9,603 万円	77 億 7,964 万円	-1 億 8,361 万円
	資本的収支	7 億 7,781 万円	7 億 9,501 万円	-1,720 万円

※千円単位で四捨五入しているため、合計額が一致しない場合があります。

**市税**…市民税、固定資産税、都市計画税、軽自動車税、市たばこ税、入湯税など

**寄附金**…ふるさと納税制度などでいただいたお金

**諸収入等**…諸収入、繰越金、分担金及び負担金、使用料及び手数料、財産収入、繰入金

**地方交付税**…市町村の財政力に応じて国から交付されたお金

**国庫・県支出金**…特定の事務・事業のための財源として、国や県から交付されたお金

**市債**…国や金融機関等から借り入れたお金

**その他**…地方交付税以外の交付税(地方消費税交付金、地方譲与税、地方特例交付金、利子割交付金、配当割交付金、株式等譲渡所得割交付金、法人事業税交付金など)

## 歳入歳出ともに増加

### 〈歳入〉

歳入は令和元年度と比べて、約140億9982万円増加しました。主な要因は、国庫支出金、特別定額給付金給付事業費補助金や新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の皆増などで大幅に増加したことや、地方債が、庁舎建替事業やコミュニティセンター建替事業などの実施により増加したことが挙げられます。

### 〈歳出〉

歳出は令和元年度と比べて、約140億6736万円増加しました。主な要因は、総務費が、特別定額給付金給付事業や庁舎建替事業により大幅に増加したことや、商工費が、新型コロナウイルス感染症対策として実施した新型コロナウイルス感染症対応利子補給等基金積立金や米商連共通買物券事業費補助金により増加したことが挙げられます。

## 一般会計 歳出

市の支出

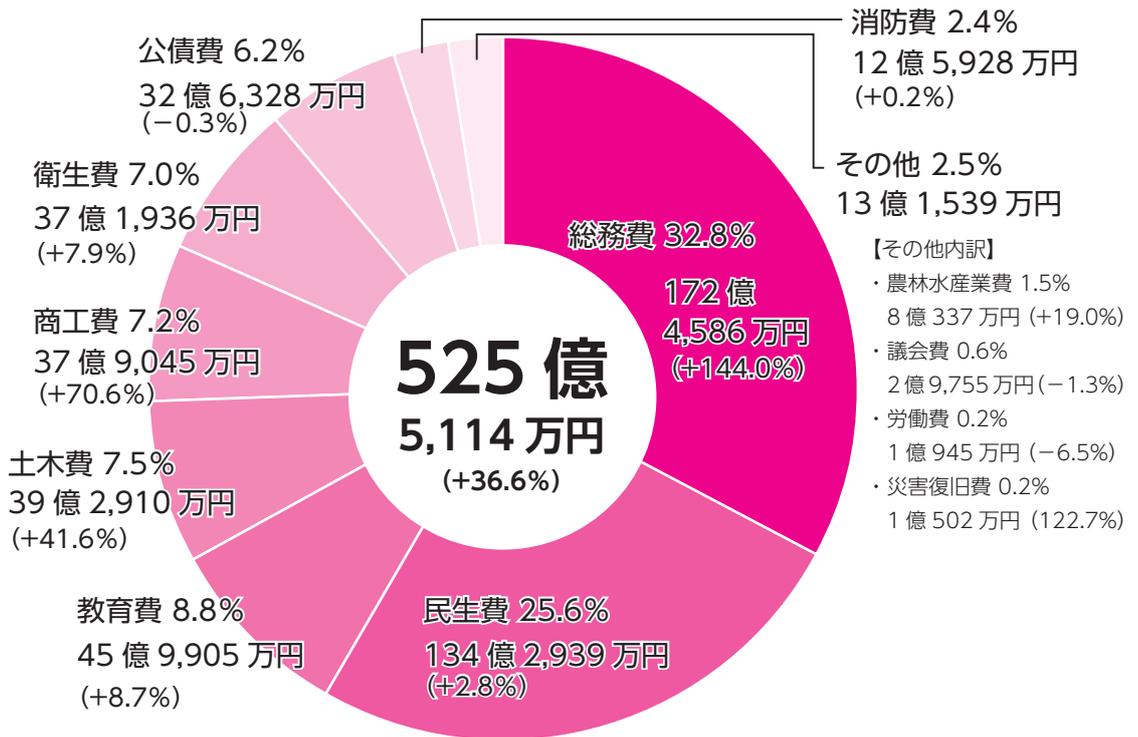


元年度から  
約140億  
6,736万円増



市民1人あたり  
65万1,191円

令和3年4月1日現在



## 監査委員の審査意見

令和2年度決算審査の結果、各会計の決算および付属書類並びに基金の運用状況を示す書類は法令に準拠して処理されており、かつ、計数は正確であり、予算の執行についても概ね適正であると認めます。

財政の健全性については、平成28年度から令和2年度までの財政健全化計画の下、実質赤字比率・連結実質赤字比率は問題なく、実質公債費比率・将来負担比率ともアラームポイントである早期健全化基準に対し、良好な数値を示し、市の財政状況は概ね良好と認められ、財政の

健全化は一歩ずつ進んでいると認められます。

今後の課題は、歳入面では新型コロナウイルス感染症の動向、地方経済見通しの行方、少子高齢化により先が見えにくく、歳出面では市庁舎建替後の負担増加と市立病院の建替え、統合中学校の整備など、大型の建設事業をはじめ歳出の増加が予測され、財政面・資金繰りでは徐々に厳しさが顕在化すると考えられます。先の見えないう状況の中、投資に見合う財政力の確保が必要です。効率的な財政運営を目指し、市民の信頼と期待に応える健全な財務状況の維持に期待します。

- 総務費**…市の全体的な管理のための経費
- 民生費**…子育て支援、福祉、医療給付などの経費
- 教育費**…学校、生涯学習、スポーツ振興などの経費
- 土木費**…公園や道路の整備、除排雪などの経費
- 商工費**…商工業の振興、観光事業などの経費
- 衛生費**…疾病予防や健康増進、環境保全などの経費
- 公債費**…市の借金(市債)返済のための経費
- 消防費**…消防・救急業務などの経費
- 農林水産業費**…農業や林業の振興などの経費
- 議会費**…市議会運営のための経費
- 労働費**…雇用対策や勤労者福祉などの経費
- 災害復旧費**…自然災害の復旧工事などの経費



## 財政指標からみる

# 米沢市の財政状況

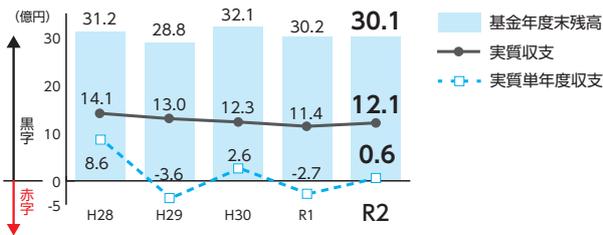
「財政指標」とは、地方自治体の財政状況を見るための指標です。



4つの財政指標を基に、令和2年度の本市の財政状況を報告します。

### 1 収支の推移と財源調整基金

財源調整基金とは、臨時の出費や財源不足を補うための貯金を指します。令和2年度の年度末残高は約30.1億円となりました。また、実質単年度収支は、新型コロナウイルス感染症に対応する経費が大幅に増加したものの、国や県からの財政措置に加え、市税や地方消費税交付金の増加などにより、約0.6億円の黒字となりました。

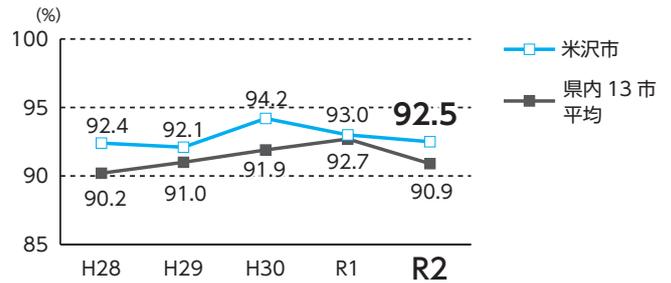


実質収支…歳入歳出の差引から翌年度に繰り越して実施する事業のための財源を除いたもの。

実質単年度収支…実質収支から前年度の繰越金や財源調整のための基金(貯金)への積立・取崩しなどを除いたその年度のみ収支バランスを表すもの。

### 2 経常収支比率

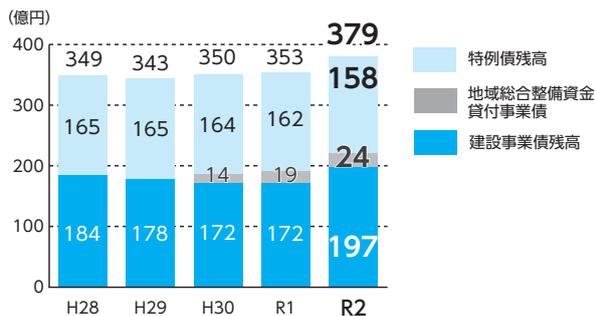
経常収支比率とは、市税や普通交付税など毎年度入るお金に対して、人件費や社会保障費、借入返済金など必ず払わなければならない経費が占める割合を表します。この比率が低いほど、臨時的な経費に使えるお金が多いことを意味し、様々な市独自のサービスができることにつながります。令和2年度の本市の経常収支比率は92.5%となり、前年度より改善しましたが、県内13市平均と比べるとやや高い水準に留まりました。



### 3 市債の年度末残高

市債とは、市が建設事業などの財源を調達するために行う長期の借金を指します。

本市の市債のうち、建設事業債の残高は減少傾向にありましたが、令和2年度は庁舎建替事業やコミュニティセンター建替事業などの大規模事業によって市債の発行が増え、それに伴って建設事業債の残高も増加しました。



※地域総合整備資金貸付事業債は、貸付を受けた企業からの返済金が償還に充てられるため、本市の将来負担には影響しません。

### 4 健全化判断比率

地方公共団体には、財政の健全度を客観的に表す4つの指標を公表することが義務付けられています。

これらの指標にはそれぞれ2段階の基準が定められていますが、本市は全ての項目で基準を下回っています。

項目	本市の数値		早期健全化基準	財政再生基準	県内13市平均
	R1	R2			
実質赤字比率	赤字額なし		12.50%	20.00%	-
連結実質赤字比率	赤字額なし		17.50%	30.00%	-
実質公債費比率	7.9%	8.2%	25.0%	35.0%	8.1%
将来負担比率	43.2%	47.7%	350.0%	-	66.0%

実質赤字比率…一般会計などの実質収支の赤字の割合

連結実質赤字比率…全ての会計を合わせた実質収支などの赤字の割合

実質公債費比率…借入金などの返済額の割合

将来負担比率…将来にわたって支払う借入金などの負債の割合

進捗状況を  
報告します

## 財政健全化計画

【表1】実質単年度収支

(単位：億円)

項目	H27	H28	H29	H30	R1	R2
計画	1.5	△ 0.5	1.1	0.1	0.3	2.0
実績	11.3	8.6	△ 3.6	2.6	△ 2.7	0.6
差	9.8	9.1	△ 4.7	2.5	△ 3.0	△ 1.4

【表2】財源調整基金の残高

(単位：億円)

項目	H27	H28	H29	H30	R1	R2
計画	17.2	16.7	17.8	17.9	18.2	20.2
実績	22.2	31.2	28.8	32.1	30.2	30.1
差	5.0	14.5	11.0	14.2	12.0	9.9

【表3】経常収支比率

(単位：%)

項目	H27	H28	H29	H30	R1	R2
計画	93.9	95.1	95.2	96.2	95.4	95.7
実績	90.1	92.4	92.1	94.2	93.0	92.5
差	△ 3.8	△ 2.7	△ 3.1	△ 2.0	△ 2.4	△ 3.2

平成 26 年度の財政状況の悪化を受け、平成 28 年 2 月に「米沢市財政健全化計画」を策定しました。本計画の進捗状況をお知らせします。■問合せ／財政課財政担当

【表4】健全化施策の効果額の進捗状況

(単位：億円)

項目	H28	H29	H30	R1	R2	計
計画	11.1	11.7	9.6	10.2	11.5	54.1
実績	14.5	13.4	11.8	12.7	12.5	64.9
差	3.4	1.7	2.2	2.5	1.0	10.8

(表4補足) 令和2年度の効果額の内訳

項目	計画	実績	差
① 税収等の確保	0.2	0.5	0.3
② ふるさと応援基金の取崩し	2.6	8.0	5.4
③ その他収入の確保	0.4	0.8	0.4
④ 人件費の抑制	1.9	0.2	△ 1.7
⑤ 他会計負担金等の抑制	4.9	1.6	△ 3.3
⑥ その他支出の見直し	1.5	1.4	△ 0.1
計	11.5	12.5	1.0



### 米沢市財政健全化計画とは？

市の財政状況改善のために、事業の更なる見直しや、職員給与の減額を行うなどした本市独自の計画です。平成 28 年度から令和 2 年度までを計画期間としていました。

これらの結果、実質単年度収支は 0・6 億円のプラスとなり、計画を下回ったものの、計画を下回ったものの、実質単年度収支の平成 27 年度以降の累計では、計画より 12・2 億円と大幅に上回っている状況です。

#### 令和2年度の概要

新型コロナウイルス感染症対策に関連する事業費が大幅に増加したものの、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金をはじめ、感染症対策に係る交付金などの大幅な増加があったことに加え、個人・法人市民税、固定資産税が計画を大幅に上回ったことなどから、歳入歳出とも計画を大幅に上回る決算となりました。

#### 基金残高と経常収支比率

収支の改善に伴い、年度間の財源調整のための基金残高は表 2 のとおり大きく増加し、令和 2 年度末では計画を 9・9 億円上回る約 30 億円の残高となりました。経常収支比率は、表 3 のとおり、各年度とも 90% 台の前半となり、やや高い水準ではあるものの計画よりも改善しています。

#### 健全化施策の効果額

計画に掲載した健全化施策の効果額は、表 4 のとおり各年度とも実績が上回っており、平成 27 年度以降の累計でも、10・8 億円と計画を大幅に上回る実績となりました。

#### 今後の財政運営

今年 2 月に今後 10 年間の財政見通しを試算し、新型コロナウイルス感染症の影響や統合中学校の整備などの大規模事業の実施に伴い、財政状況は厳しくなっていくものの、これまでに蓄えた基金を取り崩すことで財源不足を補い、安定した財政運営を維持できると考えておりました。

令和 2 年度の内訳を見ると、税収等の確保の項目は、市税の収納率向上に努力した結果、約 3 千万円の増収となりました。また、ふるさと応援基金の取崩しの項目は、これまでに計画を大きく上回るふるさと応援寄附金をいただいたことから、返礼品費などの支出を除いた額を基金に積み立てており、それを取り崩して財源にすることができました。

一方、人件費の抑制の項目は、業務に対し適正に職員を配置した結果、職員数が計画を上回ったことから、他会計負担金等の抑制の項目は、平成 29 年度に計画していた下水道使用料の改定を見送ったことなどから、それぞれ計画を下回る実績となっています。